

令和6年度 学校評価報告書（目標設定 実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識と技能を習得し、課題発見・解決に向けた協働的な学びから社会的・心理的な成長を促す。 ・主体的に学ぶ意欲を向上させ、多面的・多角的な考えに基づいて、自分の考えを適切に伝え発信する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器を活用した授業づくりを研究し、評価方法を確立し、組織的な授業改善に努める。 ②授業のUD化を進めることで障害の有無に問わらず共に学ぶ意識を向上させ、課題解決力を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①動画やオンライン授業等、ICT機器を活用した授業研究と指導と評価、生成AI利用への生徒の正しい理解を検討する。 ②本校生徒にとって必要な学校のUD化を検証し、必要な対応を検証するとともに組織的に課題の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価で「授業以外における学び」や講義型から脱却した授業の研究ができたか。 ②授業のUD化を図れたか。また、学校全体でUD化を推進することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①電子黒板導入後、ICT機器を活用した授業が格段と増え、内容も充実してきた結果、生徒が授業に取組む姿勢が良くなった。 ②授業のUD化を図ることができた。学校全体でもUD化を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①選択教室の電子黒板導入を検討していく。また、従来の黒板の利用範囲が少なくなり、板書の工夫が必要である。 ②4月に転入者への説明を実施し、全職員に対しても周知するようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①電子黒板の導入で、分かりやすい授業づくりに活かしてもらいたい。導入して終わりではなく、授業改善に取り組んで欲しい。 ②資料等のUDフォントが使用されており、非常に見やすい。継続して使用して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①電子黒板の導入で、ICT機器を活用した授業づくりが進んだ。授業改善においては継続して取り組んでいく。 ②授業のUD化を進めることができた。共に学ぶ意識や課題解決力を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が主体的に学習に取組めるような授業づくりを目指し、計画的に研修等を行うことにより、授業改善を図る。 ②授業のUD化を通して、共に学ぶ意識や課題解決力を身に付ける。
2	生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する社会と生徒への理解を深め、いのちを大切にする相談と支援体制により、すべての生徒に最適な支援を行う。 ・生徒主体の高満足度な部活動に向けた取組みを行うとともに、部活動が地域参加や生徒会行事等の活性化を図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①多様性や価値観の違い、他者を思いやり尊重する心を育むとともに、支援を要する生徒について、ケース会議や外部機関との連携を通じて、健全な成長を支援する。 ②多くの生徒が部活動に興味を持てるように、部活動オリエンテーションや部活動の活動状況等を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Coを軸に学校全体で定期的な情報共有を行う。緊急時にはCoや生徒支援Gを中心に体制を構築し、SCやSSWと連携を図り、教職員全体で生徒への支援に対応する。 ②生徒が積極的に参加できる部活動の在り方について検討するとともに、生徒の活動状況を、校内外に掲示物やSNS等を活用して紹介していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Coを軸に各学年との間で、定期的に情報を共有することができたか。緊急時には、警察等の外部機関と連携を重ね、指導方針を固めて、教職員全体での校内体制を構築し、指導を行った。 ②個々の生徒の特性を把握し、部活動の運営に反映できたか。活動状況をHP、X（旧Twitter）、classroomや掲示物等で発信することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Coを軸に各学年間で情報共有した。緊急時には、警察等の外部機関と連携を重ね、指導方針を固めて、教職員全体での校内体制を構築し、指導を行った。 ②部活動でclassroomを活用し、正確で迅速な連絡を取ることにより、生徒が部活動に積極的に参加できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒像の多様化に伴い指導の在り方も細分化している。学校の組織性を高め、教職員間、外部機関、保護者との情報共有や連携が不可欠である。 ②部活動の活動状況をHP等で発信することができていない部分がある。高校では継続して、生徒の自主的な部活動を目指していくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ①SCやSSWと連携を密にして、情報共有を図ることが大切である。綾瀬市に児童相談所が次年度設置されるので連携が大切になってくるので、有効に情報交換を行って欲しい。 ②中学の部活動は地域以下を行おうとしているが、まだ課題が多い。高校では継続して、生徒の自主的な部活動を目指していくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ①支援を要する生徒にケース会議や外部機関との連携を通じて支援できた。サポートドックの有効な活用は行えたが、SC、SSWとの情報共有が遅くなってしまった。 ②classroomを活用し、生徒が部活動に参加できただ。活動状況の発信が、タイムリーにできないので、速やかな発信を行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①支援を要する生徒の情報をサポートドックや相談体制から、収集できるようにし、早期に対応ができるようする。 ②地域行事や学校行事等で、生徒が主体に参加できるようにしていく。活動状況を速やかに発信していく。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄積した進路データを分析してエビデンスに基づく「キャリア教育実践プログラム」により、生徒の進路目標を高めるとともに、進路希望の実現に向けて支援する。 ・自分の進路と取組むべき課題に向き合い、他者と協働して社会に貢献する姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒自ら積極的に目標設定を行い蓄積した進路データを活用し「キャリア教育実践プログラム」を通じて目標が実現につながる支援を行う。 ②学校生活の中で周りの人との助け合いや協力をすることにより、周りの人への思いやりや社会に貢献する姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間Web教材や模擬試験を有効に活用する。生徒から提出された受験報告の蓄積や進路関係業者等の受験報告を活用していく。 ②総合的な探究の時間、学校行事やインターンシップ等を通じて他者との協働・課題解決能力の向上につなげる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間Web学習教材の有効活用や模擬試験等の受験者数及び進路マニュアルが有効活用できたか。 ②生徒が自ら設定した課題の探究を進め、発表やアンケート等で、評価を得ることができたか。看護体験やインターンシップの参加生徒が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間Web学習教材は臨時休校や長期休業の課題等で活用することができた。担任や面接指導者等にも活用することができ、Webを活用して指導に生かすことができた。 ②総合的な探究の時間やインターンシップ等を通して、地域との連携も大切にし、周りの人との話し合いを通じて各生徒の伸長につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間Web教材を欠席者や課題に活用していることは、良い取組である。進路決定に関しては、データが重要であるので、Web教材を活用して、2年後、3年後の成果を見たい。 ②校内活動だけではなく、地域や将来を見据えた活動が行えるよう、進路掲示板の活用や案内を積極的に活用していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「キャリア教育実践プログラム」の進路データを通じて目標が実現につながる支援を行った。生徒が更に積極的に行えるようにしていきたい。 ②学校生活の中で周りの人との助け合いや協力をすることできただ。地域の行事に参加する取り組みは、継続して行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間Web教材や模擬試験を通して、進路実現に向けた取組を生徒が主体的、計画的に行えるようにしていく。 ②総合的な探究の時間やインターンシップ等を通じて他者との協働・課題解決能力の向上を図っていく。 	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	・地域資源を活用して学校の教育活動の充実を図るとともに、外部に配信することで地域から信頼される安心・安全な学校に取組む。	①学校運営協議会の意見を有効に活用し、地域に開かれた学校の具現化を図り、取り組みを外部に発信できるようにする。	①学校運営協議会の意見を全職員で共有し、それを参考に学校の諸活動の改善を図り、外部に発信する。	①学校運営協議会と学校が有意義な意見交換を行うことにより、地域との協働的な活動を行うことができたか。	①学校運営協議会の意見を得て、地域の行事やボランティア等に参加し、協働的な活動を行うことができた。	①協働的な活動を地域等に発信できていない部分があるので、発信方法について検討をしていきたい。	①自治会とのつながりを密にしていくことが大切であると感じる。以前行った交通安全指導等の実施について検討して欲しい。	①学校運営協議会の意見を有効に活用することができる。地域に開かれた学校を実現していくための更なる取り組みが必要である。	①地域資源に関する情報について、学校運営協議会の意見を参考にし、地域に開かれた学校を目指していく。
		・開かれた学校づくりを行い、学校における共生社会の実現等を発信する。	②小学校や福祉施設等との交流を推進することで、地域の人々とともに歩む学校づくりの推進を図る。	②地域との交流を計画的に行うことができたか。SNSを活用して、取り組みを効果的に発信することができたか。	②綾瀬市が提供するボランティアや就業体験に、各学年の生徒が応募するようになってきている。また、部活動単位で地域のイベントに、積極的に参加している。	②SNSを活用して、取り組みを効果的に発信することができなかった部分があるので、組織的に対応していきたい。	②部活動で地域のボランティアへの参加が多いようなので、これからも参加をしていって欲しい。	②部活動においては、福祉施設等との交流を図ることができた。学校全体で、地域の人々とともに歩む学校づくりの推進を図っていきたい。	②部活動において更なる地域交流を図ることで、その取り組みを外部に発信できるようにしていく。	
5	学校管理 学校運営	・インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現に引き続き取組む。	①生徒、職員双方にインクルーシブ教育実現のための意識付けを行い、校内外において共生社会の実現を図る。	①校内研修や相談窓口の活用等を通して、校内にいる一人ひとりが主体的に共生社会に参画できる意識付けを行う。	①生徒は互いに前向きな声掛けをしあう様子が見られたか。職員は支援の観点から授業づくりを進めることができたか。	①生徒向けの研修会や日々の学習活動を通して、特別募集と一般募集生徒とも、双方に助け合う姿がみられた。また、教員への研修会を通して、支援策を学校全体で考え、共有することができた。	①インクルーシブとは本来、障がいの有無だけを指すものではない。本来の意味に立ち返り、様々な意味で「みんな平等」に学べる環境づくりを目指し、取り組みを行っていきたい。	①「インクルーシブは特別ではない」という視点にして、ために、障害の有無に関わらず、平等に指導していくことが大切である。	①生徒、職員共に研修を通じて、インクルーシブ教育実現のための意識付けを行うことができた。校内外において共生社会の実現を図れるようにしていきたい。	①生徒、職員共に研修を行ことにより、インクルーシブについて理解を深め、校内外において共生社会に参画できる意識付けを行っていく。
		・「いのち」を大切にして、健康や安全を心がけ、多様な他者も尊重する心を醸成する。	②学校が安心・安全な学びの場所になるよう教育環境を整備し、マニュアルを活用した災害時対応の防災訓練を実施する。	②マニュアルを基にした防災訓練を計画的に行い、マニュアルの問題点や改善点の見直しができるようにする。	②計画的に避難訓練を行うことができたか。マニュアルの改善点等の見直しを図ることができたか。	②災害発生時に対応するためシェイクアウト、帰宅班確認、一時避難やDIG等の防災訓練を行った。また、災害発生時に備えて備蓄品の補充及び点検をした。	②防災マニュアルに関しては、現状に合わせた見直しを毎年行っていく必要がある。防災名簿の作成がある。普段から近隣住民と顔を合わせる機会があるだけでも対応が違ってくる。	②避難所として学校に来る方への対応については、地域と情報を共有する必要がある。普段から近隣住民と顔を合わせる機会があるだけでも対応が違ってくる。	②学校が安心・安全な学びの場所になるよう、マニュアルを作成することができた。防災訓練の時期を見直して、年度当初に行っていきたい。	②危機管理マニュアルを職員全体に周知徹底を図り、校内施設の安全点検を、日常から意識して行えるようにする。
		・教職員のキャリアを高め、働き方改革を促進するとともに、生徒と向き合う時間を確保する。	③現状の働き方の問題点について把握することにより、働き方改革につなげられるようにしていく。	③職員から具体的な働くまでの問題点についての意見を集約し、対応可能な事象について、改善を図ることはできるか。	③働くまでの問題点を集約することができたか。対応可能な事象について、改善を図ることはできるか。	③働くまでの問題点を集約し、会議の回数を減らす等、改善を図ることができた。	③更なる働き方改革を目指して、グループ業務の見直し等を行っていきたい。	③職員の理解を得ながら、働き方改革を進めていって欲しい。	③現状の働き方の問題点について把握し、会議の開催回数の精選等を改善した。更なる業務の見直しを行うことにより、働き方改革を進めていく。	③グループの改編を行うとともに、業務内容の見直しを行い、業務量の削減を行うことで、働き方改革につなげていく。